

指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

評価年度	令和4年度
------	-------

1 基本情報

公の施設名	市民・大学交流センター(ユニコムプラザさがみはら)
指定管理者名	公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
施設設置条例	相模原市立市民・大学交流センター条例
施設の設置目的	市民と大学等との連携により、地域の課題の解決及び地域の活性化を図る (相模原市立市民・大学交流センター条例第2条)
施設概要	・所在地 南区相模大野3丁目3番2-301号 ・床面積 2,965.82㎡ ・構造 鉄筋コンクリート造 ・施設 セミナールーム1・2、実習室1・2、ミーティングルーム1・2・3・4・5 マルチスペース、AVスタジオ、シェアードオフィス1・2・3、 大学情報コーナー、地域情報コーナー
施設所管課	市民局 市民協働推進課

2 管理実績

項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
利用者数合計(人)	34,162	58,011	96,434				
利用料金合計(円)	12,368,435	24,217,866	34,299,916				

3 成果指標の達成度

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
D	<p>達成度が80%未満のため、基準に基づき評価は「D」となる。ただし、コロナ禍で大学や市民団体の活動が停滞した影響を鑑みると、やむを得ない部分もあった。</p> <p>■指標1の達成度については、利用が回復しつつあるが、コロナ禍前の数値を基準とした目標値に対して82.5%となっている。</p> <p>■指標2の達成度については、(1)シェアードオフィス28.7%、(2)大学情報コーナー120%、(3)地域情報コーナー97.2%となっている。シェアードオフィスについては、本市のアクセラレーションプログラムや大学院MBAと連携した、起業家向けの取組を工夫しているが、達成度は依然として低い状況であるため、条例の範囲内で様々な試行をしていただきたい。</p> <p>■指標3の「市民と大学との橋渡し」については、現期間より指標の要件の見直しを行い、募集や周知の取組は除いたことで、事業報告上の25件のうち、大学の専門性と人材を活かした橋渡し21件を指標の対象として評価した。件数だけでなく、内容の高度化を図るために、市内の各主体との良好な関係を構築し、事業担当による積極的な渉外を行っていただきたい。</p> <p>■指標4(1)は5団体をまちづくりモデル事業として新規に認定したことにより、対話の数の達成率が125%であった。前年度以前に認定した団体の活動も継続して支援していることや、学生の参画に結びつけていることは評価できる。指標4(2)の「まちづくりプロジェクトについては、コロナ禍の影響もあり、実施に至っていないことから、今後指定管理事業として最優先で取り組んでいただきたい。</p>

指標 1							
指標名 (単位)	【指標1】有料施設の利用率(シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーを除く)(%)						
指標式と指標の説明	指標式: 有料施設の利用コマ数 / 有料施設の利用可能コマ数 × 100 有料施設の利用率を指標とすることで、施設の活用を図るとともに、施設利用者への施設の設置目的の認知度向上を推進するもの。						
項目 (単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値 (%)	84.0	85.0	77.0	79.0	81.0	83.0	85.0
実績値 (%)	58.5	57.2	63.5				
達成度 (%)	69.6%	67.3%	82.5%	-	-	-	-
指標 2 (1)							
指標名 (単位)	【指標2(1)】有料施設の利用率(シェアードオフィス)(%)						
指標式と指標の説明	指標式: 利用日数 / 利用可能日数 × 100 【①個人<30名>、②団体<8団体>、③大学<4大学>】 シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーの利用率を指標とすることで、大学の情報の発信及び地域活動及び市民活動を推進するとともに、大学との連携を図っていくもの。						
項目 (単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値 (%)	84.0	85.0	42.0	46.0	50.0	54.0	60.0
実績値 (%)	34.7	29.4	28.7				
達成度 (%)	41.3%	34.6%	68.3%	-	-	-	-
指標 2 (2)							
指標名 (単位)	【指標2(2)】有料施設の利用率(大学情報コーナー)(%)						
指標式と指標の説明	指標式: 利用日数 / 利用可能日数 × 100 【(大)<15ブース>、(小)<3ブース>】 シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーの利用率を指標とすることで、大学の情報の発信及び地域活動及び市民活動を推進するとともに、大学との連携を図っていくもの。						
項目 (単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実績値 (%)	113.3	120.0	120.0				
達成度 (%)	113.3%	120.0%	120.0%	-	-	-	-
指標 2 (3)							
指標名 (単位)	【指標2(3)】有料施設の利用率(地域情報コーナー)(%)						
指標式と指標の説明	指標式: 利用日数 / 利用可能日数 × 100 【(小)<9ブース>】 シェアードオフィス、大学情報コーナー、地域情報コーナーの利用率を指標とすることで、大学の情報の発信及び地域活動及び市民活動を推進するとともに、大学との連携を図っていくもの。						
項目 (単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値 (%)	84.0	85.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実績値 (%)	98.4	93.6	97.2				
達成度 (%)	117.1%	110.1%	97.2%	-	-	-	-

指標 3							
指標名 (単位)	【指標3】地域活動や市民活動を行う市民と大学との橋渡し件数(件)						
指標式と指標の説明	市民(市内で活動する個人、団体、NPO、企業等)と大学が連携して、地域の課題解決や活性化を实行するための助言や企画提案等を行った件数を指標とすることで、センターの設置目的の達成を図るもの。 ※対象自体の企画・運営にセンターが携わり、助言・企画提案を行ったものとする。(募集・事業の周知を除く)						
項目 (単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値 (件)	26	26	27	28	28	29	29
実績値 (件)	28	27	21				
達成度 (%)	107.7%	103.8%	77.8%	-	-	-	-
指標 4 (1)							
指標名 (単位)	【指標4(1)】「地域づくりプロジェクト」の対話の場の数(回)						
指標式と指標の説明	「市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供する業務」の成果を測る指標の1つ目として設定することで、センターの設置目的の達成を図るもの。 『地域の課題解決等に向けて具体的テーマに沿って定期的に活動を行う団体(市民、大学)を募集し、大学と地域との連携を望む事業を認定する。その後、当該団体と取組の内容、方法、目的等について、様々なアイデアを出し合い企画、立案、検討等を行う機会。』						
項目 (単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値 (回)	4	4	4	4	4	4	4
実績値 (回)	7	4	5				
達成度 (%)	-	-	125.0%	-	-	-	-
指標 4 (2)							
指標名 (単位)	【指標4(2)】実施した「地域づくりプロジェクト」の本数(本)						
指標式と指標の説明	「市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供する業務」の成果を測る指標の2つ目として設定することで、センターの設置目的の達成を図るもの。 『プロジェクトを進行させるため、協力する大学が1つ以上あり、企画段階で出されたアイデアを実践することや、目的の達成のために必要な人材の募集や資源の収集などを行うことで、プロジェクトとして設定した目的に沿った事業を実施する。』						
項目 (単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値 (本)	4	5	5	6	6	7	7
実績値 (本)	0	0	0				
達成度 (%)	0.0%	0.0%	0.0%	-	-	-	-

4 事業の実施状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
B	<p>評価基準に基づき、評価は「B」とする。</p> <p>■①大学等との連携による事業(減免利用数)が減少していることから、市民に施設をより活用してもらえよう周知を行っていただきたい。</p> <p>■②施設の情報について、情報誌やホームページ、SNSで定期的に発信されているが、今後は効果測定に努めて効果的な周知を行っていただきたい。</p> <p>■③ピックアップ件数や橋渡しが減少していることから、相談者への寄り添った対応や、大学のニーズの丁寧な聞き取りが必要である。大学の専門性を活かした連携の増加や、完了までに時間を要する取組について長期的な視点での支援を期待したい。今後、施設による助言・企画提案の詳細報告を広く周知し、連携相談の増加に繋げていただきたい。</p> <p>■④まちづくりフェスタをイベントデーと交流展示会の2本立てで開催した。今後はこうした様々な機会をとらえて、学生の専攻・特性に合った事業運営の参画に繋がることを期待する。</p> <p>■⑤さがみはら地域づくり大学について、コースの見直しや、見学講座を取り入れ、受講生の増加につながった。また、コーディネーターズサークルのメンバー間の活発な交流を支援したことを高く評価する。各講座の定員を満たすよう、講座内容の魅力向上、広報の強化など可能な手段は今まで以上に積極的に行っていただきたい。</p> <p>■⑥オーサースカフェについて、長く継続していることを評価するが、大学との連携に繋がる内容も検討いただきたい。また、フリースペースのさらなる活用により、センターの利用促進に努めていただきたい。</p> <p>■⑦利用者満足度の結果だけでなく、日頃から寄せられているオンライン予約への要望や、予約時の対応、利用条件の緩和など、利用者目線や利便性も考慮して運営に反映していただきたい。</p> <p>■⑧大学・学生や地域団体などとの連携がより発展するよう、他の協働推進拠点のイベントや事業に、事業担当も参画して相互の業務の情報共有や関係性の強化を図っていただきたい。</p> <p>■自主事業として、大学が主体でイベントを実施するチャレンジショップについて、フリースペースを活用して実施したことを評価する。自主事業の課題を分析し、収益にも繋げていただきたい。</p>

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
大学連携に係る施設利用等に関する事業 事業計画書①	通年	大学連携に係る施設利用等に関する事業	△
	通年	【大学連携に係る施設利用】 大学との連携により地域の課題の解決又は活性化を図るための事業のための利用 ■大学連携に係る減免利用数: 13件〔前年度比-7〕 ■学生団体の減免利用: 3件〔前年度比-19〕	/
	通年	【団体登録】 大学等との連携により地域の課題解決又は活性化を図るための事業を施設にて実施する団体の登録 ■登録団体数: 43団体〔前年度比±0〕	
さがみはら地域づくり大学の運営等に関する事業 事業計画書⑤	通年	地域活動や市民活動への参加方法を知り、活動に結びつけ、更に活動を牽引する担い手づくりを目的とした事業	◎
	9月～1月	【さがみはら地域づくり大学】 市民等が、協働の観点での地域活動及び市民活動を促進するために役立つ知識や技術を体系的に学ぶことのできる場の提供 ■講座数: 17講座 ・公開講座: 3講座、市民企画講座: 2講座 ・地域活動コース: 4講座、専門講座: 8講座 ■受講者数《目標値: コース受講者数: 18名》 ・講座受講者数: 56名〔前年度比+6〕 ・コース受講者: 23名(うち短縮版コース7名)〔前年度比+14〕 ・コーディネーターズサークルメンバー新規登録者数: 10名〔前年度比±0〕	/
	通年	【コーディネーターズサークル】 修了者の活動のフォローやスキルアップ、修了者同士の交流に繋がる機会の提供 ■開催数: 4回、延べ参加者数36名	

企画提案事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
大学の研究教育活動や地域連携の取組等の情報を発信する事業 事業計画書②	通年	情報コーナー出展大学・団体による地域貢献の取組事例や市民・他団体、大学との連携について紹介する事業	○
	通年	【情報誌(月刊誌)UNICOM PAPERの発行】 施設の事業、大学・施設利用者の活動や、市民と大学との連携に関する情報の紹介 ■年12回発行、毎月2,000部、約200ヶ所に配架	/
	通年	【施設及び事業の広報・PR】 センターの利用、市民と大学との連携促進を目的としたPR ■情報誌UNICOM PAPER《月1回発行》 ■ホームページ《週2回更新》 ■SNS(Facebook、Twitter、LINE、Instagram) ■ニュースリリースの発行：年10回	
通年	市民と大学が連携を深め、課題を共有し、大学の専門性と人材を活用して地域課題の解決や地域の活性化に取り組むための橋渡し事業	△	
地域活動や市民活動を行う市民と大学との橋渡しをする事業 事業計画書③	通年	【市民・大学等のニーズ・シーズ調査】 施設利用者・関連大学へ連携希望をヒアリングし、団体登録や大学との連携やシェアードオフィス利用に繋げる。 ■ピックアップ件数：17件〔前年度比-27〕	/
	通年	【市民と大学等の連携支援】 ■相談件数：延べ229件(同一案件の重複あり)〔前年度比+6〕	
	通年	【シェアードオフィス交流会】《年間12回計画》 入居者同士の連携、協働を目的とした交流会 ■開催数：12回 各月参加団体数：10～13団体	
	通年	【ユニコムサミット】《年間1回計画》 地域に関するテーマに関わる団体や専門家が直面する課題についてディスカッションを行う事業 ■参加者：68名 ■テーマ：「絵本でつながる"世界"」	
市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供する事業 事業計画書④ まちづくりモデル事業《指標4(1)》、まちづくりプロジェクト《指標4(2)》は「3成果指標の達成度」にて評価しているため除く	通年	実行力を持つ市民と大学が交流する場を設定するとともに、協働して研究する機会を提供する事業	○
	5月9日(日)	【ユニコムサミット】《年間1回計画》 地域に関するテーマに関わる団体や専門家が直面する課題についてディスカッションを行う事業 ■参加者：68名 ■テーマ：「絵本でつながる"世界"」	/
	①交流展示会 10月1日～31日 ②イベントデー 10月16日(日)	【第10回まちづくりフェスタ】《年間1回計画》 まちづくりをテーマとした市民と大学の協働事業の成果を発表・共有し、交流を図る事業 ■出展：①24団体 ②17団体 ■見学者：②約600名	
	通年	【学生スタートアップ事業】 学生が主体的に、地域活動に係るイベント・事業の運営に参画する機会の提供 ■学生活動：7回 ■LINEでの情報周知：34回	
	通年	【学生インターンシップ】 施設でのインターンシップ受入れによる学生支援 ■受入数：27名	
通年	センターの利用と、市民と大学との連携の促進を目的としたPR活動・情報発信する事業	○	
センターの利用促進を図り、施設の活性化を促進する事業 事業計画書⑥	通年	【フリースペースの活用】 新たな層の地域活動への参加を促進し、新たな協働が生まれる場として有効活用する。 例)・月替わりで大学・高校等の作品展を開催 ・地域活動に関する情報をホワイトボードに掲示	/
	通年	【オーサースカフェ】《年間24回計画》 市民向けに「身近な話題をテーマにした講座」を実施し、施設来所者を増やす事業 ■開催数：24回 ■参加者：延べ806名〔前年度比+228〕	
	通年		

	通年	【ユニコムセミナー】《年間3回計画》 大学との連携を希望する個人・団体と大学が交流する場 ■開催数:3回 ■参加者:計159名	
	7月～8月	【アートイベント】 近隣の美術系大学や高校と協力し、市民が芸術を気軽に楽しむきっかけを提供する事業 ■開催数:1回「真夏のアート展」 ■出展者:11名	
センターの利便性向上を図る業務 事業計画書⑦	通年	利用者アンケートの結果からの改善により、利用者への利便性、サービス向上を図る事業	○
	通年	【利用者からの要望対応】 利用者アンケート・満足度調査などで得られた利用者からの意見の反映 ■対応内容:Wi-Fiの電波強度の強化、オンライン環境整備	
	通年	【調査報告書の公開】 調査報告ならびに結果を施設ホームページで公開するとともに、記者クラブ向けにニュースリリースを発行し情報提供した。	
協働推進拠点間の連携及び 団体間の交流機会の創出 事業計画書⑧	通年	センターが市民・大学や協働推進拠点と連携して、各主体の地域活動を支援する事業	○
	通年	【協働委員会】 団体間の交流の場として、相互の活動紹介や情報交換等が行える機会を創出する取組 ■参加者:市民団体4名 ■テーマ:「絵本に関する意見交換会」	
	通年	【センターにおける市民との連携】 センターと市民(市内で活動する個人、団体、NPO、企業等)とで連携した取組 例)・商業ビル内の他店舗の広報支援・情報の共有化 ・保育士就職イベントでの、学生向けの周知支援	
	通年	【センターにおける大学・学生との連携】 センターと大学とで連携した取組 例)・大学のSDGsの取組展示 ・大学ゼミの取組展示 ・大学写真部の作品展示 ・学生ボランティア団体によるイベント ・施設事業での大学教授への講師登壇	
	通年	【センターにおける市各課・関連施設との連携】 センターと市各課・関連施設とで連携した取組 ■市民活動サポートセンター :市民活動相談会、「利用団体活動紹介パネル」の展示 ■その他 例)・南区民会議に参加し情報収集・交換を行っている。 ・情報コーナー等で、南区の広報・事業周知に協力した。 ・青少年学習センターによる支援事業において、審査員として事業にアドバイスを行った。また、学生団体向けの周知文作成など募集支援を行った。 ・市各課からの依頼により、学生向け事業のLINEでの周知を行った。 ・SDGsスタンプラリーの実施。「ゴール17」対象施設。 ・エコパークさがみはらやソレイユさがみとの事業の相互の周知や連携を行った。	

自主事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
チャレンジショップ	通年	<p>【チャレンジショップ】8回実施 センターと大学の知名度向上や、学生の社会経験や起業を期待して、大学の資源をセンター内で提供する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北里大学／出張！北里アクアリウムラボ ■4月1日～ ・町田製菓専門学校／マジパンお菓子作り ■6月18日 ■参加者：計60名 ・女子美術大学／夏のワークショップ アクセサリー作り ■8月28日 ■参加者：計28名 ・産業能率大学／SANNNO キッズワークショップ ■9月17-18日 ■参加者：計275名 ・横浜美術大学／作品展示 ■10月3日～11月8日 ・横浜美術大学／ワークショップ ■11月5日 ■参加者：計3組7名 ・東海大学／市民向け公開セミナー ■12月10日 ■参加者：計23名 ・麻布大学／いのちの博物館ワークショップ ■3月18日 ■参加者：計15名 (・和泉短期大学／子育てひろば「はっぴい」 ■8月10日<中止>) 	○

5 利用者の満足度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	<p>達成度が107.7%のため評価基準に基づき、評価は「A」とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■利用者へ説明を行い手渡すなど丁寧な対応により多くの回答数を得られていることは評価できる。 ■引き続きオンラインアンケートも行っていることは評価できる。忌憚のない意見も得られるため、年間を通じて実施するなど運営に活用していただきたい。 ■施設運営への理解が概ね得られている一方、不満との回答へは職員間で共有し改善することで、今後の運営に役立てていただきたい。 ■施設の事業・イベントについて、参加者の満足度が引き続き高いことは評価できる。事業・イベントを施設内部でのチラシ配布にとどまらず、他施設との連携やSNSの活用などにより外部にも幅広く周知して、貸館利用のみならず、事業やイベントの参加者の増加に繋げてほしい。 ■総合的な満足度の回答のうち「わからない」も意思表示の一つだと思われるので、算定の母数に入れたほうがよいのではないのか。 ■現在利用していない人や今後利用しそうな人に対しても、施設や事業の認知度や、どうすれば利用や参加しなくなるかの視点も盛り込んだ分析や検討を、今後は行っていただきたい。

利用者満足度調査											
調査手法/サンプル数	<p>各部屋及び窓口にアンケート用紙を設置し、利用終了後に施設の入口横に設置した回収箱または窓口にて回収。</p> <p>■合計775件《調査期間：R5.1.4～2.28：56日間》</p>										
目標値の基準	<p>一般利用者の施設に対する満足度、利用者の性別、年齢、住まい、職業、利用頻度、利用目的及び利用頻度などを調査した。</p> <p>目標値は、次の10項目について、「やや満足」以上の評価平均が90%以上であることとした。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">①利用のしやすさ</td> <td style="width: 50%;">⑥地域づくり大学</td> </tr> <tr> <td>②設備や備品について</td> <td>⑦まちづくりフェスタ</td> </tr> <tr> <td>③職員の利用者への接し方</td> <td>⑧まちづくりモデル事業</td> </tr> <tr> <td>④オーサースカフェ</td> <td>⑨橋渡し・相談事業</td> </tr> <tr> <td>⑤市民・大学交流会</td> <td>⑩総合的な満足度</td> </tr> </table>	①利用のしやすさ	⑥地域づくり大学	②設備や備品について	⑦まちづくりフェスタ	③職員の利用者への接し方	⑧まちづくりモデル事業	④オーサースカフェ	⑨橋渡し・相談事業	⑤市民・大学交流会	⑩総合的な満足度
①利用のしやすさ	⑥地域づくり大学										
②設備や備品について	⑦まちづくりフェスタ										
③職員の利用者への接し方	⑧まちづくりモデル事業										
④オーサースカフェ	⑨橋渡し・相談事業										
⑤市民・大学交流会	⑩総合的な満足度										

項目（単位）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値（%）	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績値（%）	95.5	97.4	96.9				
達成度（%）	106.1%	108.2%	107.7%	-	-	-	-

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
アンケートの手渡し	令和5年1月～2月	曜日・時間帯を問わず、全ての利用者にはアンケートの趣旨を説明し、手渡しで記入を依頼した。また、イベント参加者にも同様の説明を行い回収に努めた。目標の600件を上回る775件の回答を得た。
LINEでのアンケート実施	令和5年1月～2月	施設利用者向けにLINE登録(市内・外)を促し、調査時に登録者に対してオンライン上でアンケートを実施、71件の回答を得た。

6 施設の経営状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
B	<p>事業収支、全体収支としては赤字のため加点なし、法人の財務状況としては特段の課題はないため加点10点とする。計10点として評価基準に基づき、評価は「B」とする。</p> <p>■ 本体事業収支、全体収支について、光熱費高騰の影響が大きく、想定よりも減収したことにより赤字(▲約252万円)である。運営上、令和3年度分のコロナ禍に係る損失補償(約142万円)を含めた額では赤字(▲110万円)となっている。光熱費高騰に対し、市との調整の上、自主的な努力として細かな要因分析、節電対策をとったことを評価する。</p> <p>■ 指定管理事業であるが、具体的な取組に繋がらなかったまちづくりプロジェクトなど、大学との連携事業に係る本来の事業費も考慮した収支計画を立てていただきたい。</p> <p>■ 申請当初の事業計画予算と比較して、経費の見直しにより事業費が減少しているが、まちづくりプロジェクトや橋渡しのための渉外など、大学連携に係る指定管理業務の遂行に充てていただきたい。</p> <p>■ 備品購入や施設修繕等の利益の還元は、費用対効果と、全体収支のバランスを考慮した上で引き続き行っていただきたい。</p> <p>■ 施設や設備を有効活用した自主事業により収入を確保していただきたい。</p> <p>■ 法人全体の正味財産増減計算書では増収増益となっているため、団体本体の法人としての経営状況としては問題ないと思われる。ただし、規模が小さいので、何か突発的な事件事故等が発生すると影響が大きい可能性がある。しかし、総資産の2/3は預金であり、前年より増加しているため、すぐに何か影響があるわけではないと思われる。引き続き公益社団法人として、適正な範囲での収益を確保するよう努めてほしい。</p>

施設の収支概要		※直近3年間について記載 (千円)		
項目		令和2年度	令和3年度	令和4年度
収入 (a)		73,793	74,412	75,641
	指定管理料	42,893	37,873	36,229
	利用料金収入	13,205	25,032	36,302
	その他の収入	17,695	11,507	3,110
支出 (b)		75,140	75,841	78,168
	人件費	42,332	42,295	46,270
	本社管理経費	2,434	2,434	2,918
	その他の支出	30,374	31,112	28,980
本体事業収支 【(a)-(b)】 (c)		-1,347	-1,429	-2,527
自主事業収入 (d)		0	0	0
自主事業支出 (e)		0	0	0
自主事業収支 【(d)-(e)】 (f)		0	0	0
全体収支 【(c)+(f)】		-1,347	-1,429	-2,527
備考	<p>(a)収入は、前年度比較では1.7%の増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理料は、新規指定管理期間に伴う減額により4.3%減 ・利用料金収入は、コロナ禍からの回復により45%増 ・その他の収入は、コロナ禍に係る協力金や補助金の減少による減 <p>(b)支出は、前年度比較では事業関連経費が減少した一方で、人件費・光熱費の増額により3.0%の増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費は、副所長の増のほか、コロナ禍による休館・時短がなくなり9.4%増 ・光熱水費は、電気代高騰、使用電力量の増加により36.1%増 ・事業関連経費は、講師報償費などの減により18.5%減 <p>(c+f)全体収支は、前年度比較では76.8%の赤字増となっている。</p>			
団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。			

7 管理業務の履行状況

検査方法	市チェックリストに基づき、指定管理者へのヒアリング・現地確認により検査を実施	
実施時期	令和4年10月・令和5年2月	
検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	・部屋入替時の運営体制など、効率性を考慮すること。
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	・事業担当による、大学連携に係る渉外や相談の強化を図ること。 ・利用承認担当のシフトにおいて、効率性を考慮すること。
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	改善済	・管理業務の適時かつ適切な報告を行うこと。
加点事由	具体的内容	

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	有
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	○
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	×
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	○
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	○
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	×
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	×
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	○
その他取り組んでいること	-

9 指定管理者の自己評価

- 指定管理第四期の1年目(通算10年目)は、利用者数や利用率は回復傾向となったが、光熱費の高騰が運営上の課題となった。電気代が増加した要因を分析し、日常からの節電に努めた。
- シェアードオフィスでは、市の起業者向け事業と連携したほか、大学院(MBA)からの社会起業者の入居に繋がった。
- 「まちづくりフェスタ」をコロナ禍では展示形式としていたが、今年度はイベントデーとの2本立てで開催し、会場設営は学生の意見も取り入れながら、多くの来場者を集めた。地域づくり大学の修了生による講演や、受講生によるブース出展など、施設の他事業との連携も強化した。
- 「市民と大学との橋渡し」は市民団体・大学の活動が再開し、大学の専門性と人材を活かした橋渡しの件数が戻ってきている。センターによる企画提案をさらに増やすために外部との交渉や連携に引き続き注力していきたい。
- 重点施策である、「まちづくりモデル事業」では、大学団体による事業を認定したほか、年度末の事業報告会では、団体同士でのレビューを実施するなど団体間の交流も図れるよう工夫した。「まちづくりプロジェクト」については複数テーマを決めて、それぞれが調整段階である。今後、実際の取組として着手・実施に繋げていきたい。
- 「地域づくり大学」の講座運営にあたっては、新たにコース開始時のオリエンテーションや見学講座を実施することで、受講生同士の同期としての意識づけを行った。修了生の交流会においても実地見学を行うなど、修了生による活動の活発化を支援した。
- 「学生インターンシップ」の受入れにより、施設の各事業にて学生の意見を取り入れ、若年層の施設利用、事業参加に繋げた。
- 現期間より自主事業として「チャレンジショップ」を実施し、大学による施設の活用、学生の社会経験の場として、市民との交流に繋げた。
- 公益社団法人の財務状況として特段の課題はなく、引き続き適正な運営に努めていきたい。

10 所管課意見

- 引き続きコロナ禍や光熱費増の影響がありながらも、工夫しながら管理運営及び事業の実施がなされていることを評価する。
- 「地域づくり大学」について、運営委員会の意見を反映し、受講生同士が楽しく交流できる雰囲気作りを行ったことを評価する。修了後の活動にも繋がるよう引き続き支援いただきたい。
- 大学連携に係る主要な指定管理事業である、市民と大学との橋渡し、まちづくりプロジェクトに要する経費を考慮した収支計画を立て、最優先で取り組んでいただきたい。また、件数の増加だけでなく内容の高度化を図っていただきたい。
- 事業担当は市内の地域活動団体、大学・学生への積極的な勧誘により、連携ニーズの掘り起こし、市民との連携支援に努め、より大学や学生にとって魅力的な事業を行っていただきたい。
- 市民が気軽に相談しやすい体制を構築し、相談者が何度でも訪れたいような運営に努めていただきたい。
- 大学生向け食材支援等については公の施設としての役割を果たすようしっかり対応し、施設の知名度向上や事業への参画に繋げていただきたい。
- 貸館業務における人員配置などを見直すことで、効率性や経済性の高い運営をしていただきたい。
- 利用者の声を聞くことで、公平性と利便性に配慮し、多様な市民団体がより活用しやすい施設運営をしていただきたい。

11 選考委員会意見

■市民と大学を繋ぐためには、人と人との関係が大きく影響することから、市民、大学に対して緊密で良好な関係を築いてほしい。大学の知的資産を活かしたり、逆に大学が市民の知識やスキルを役立ててもらえるような接点を増やせるとよい。

■「大学との橋渡し」としては大学単位で地元の大学との連携を考えることが一般的である。市民から大学への直接の連携依頼はハードルが高いことから、市民に対して大学との調整・交渉を支援していただきたい。また、橋渡しを行う連携支援の専門窓口として、大学や学生が参画したくなるような的確な助言と魅力的な企画提案に必要となる、大学や学生側のニーズや情報を把握するためにも、日頃からより積極的に話をする機会を設けてほしい。

■満足度調査における不満点との回答理由を分析して、施設運営や利用者への案内に活かしてほしい。コロナ禍や節電対策への意見を反映できるようにアンケートの調査項目を見直す必要もあるのではないかと。今後もSNS等を活用した意見聴取に尽力していただきたい。

■人員体制については、ジョブローテーションなどにより、管理者に代わる職員や渉外・連携相談に携わる事業担当を育成することが必要であり、持続可能な体制構築が課題である。

■収支面については、事業の継続性のためにも、自主事業等により全体の黒字化を目標に運営してほしい。

■電気代の高騰に対し、職員間で節電委員を設けて細かな要因分析を行い、具体的な対策をとったことを評価する。

総合評価（自動判定）

C

(45/100)

